



開催レポート

最近気候が変わってきてる？地球温暖化の影響？地球温暖化と気候変動、
そして、2050年のカーボンニュートラルを達成するにはどうしたらよいかを考える
「エネルギー・環境セミナー」を2021年7月17日に京都市で開催しました。

＜プログラム＞

第一部：塩見泰子氏（講演）

これからどうなる？気象予報士から見た地球温暖化

第二部：塩見泰子氏×秋元圭吾氏（トークセッション）

2050年のカーボンニュートラルに向けて

温室効果ガスの排出を減らすにはどうする？



セミナーには、地元の高校生など約120名（会場：約50名、オンライン：約70名）の参加がありました。
当日のセミナーの様子をご紹介します。



第一部：塩見さんのご講演

これからどうなる？気象予報士から見た地球温暖化

「おはよう関西」などでTV出演されている気象予報士の塩見さんから私たちの身近で起きている温暖化現象やそれに伴い発生する自然災害からの身の守り方などについてお話いただきました。

参加者の声



- ・100年間のデータをもとに気温上昇について説明していただき、CO₂削減が重要なことを改めて認識しました。
- ・温暖化の影響は、自分たちの身近で起きていることが分かりました。さらに、地球環境問題についても、よく理解することができました。とても楽しく、また発見も多かったです。

<p>最近気候が変わってきてる？地球温暖化の影響？</p> <p>本日の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ●身の回りの「温暖化」 ●温暖化するとどうなる？ ●私たちがすべきこと？ 	<p>第一部</p> <p>これからどうなる？気象予報士から見た地球温暖化</p> <p>塩見泰子 <small>しみた ゆきこ</small> 気象予報士/元気象予報士/環境政策アドバイザー</p>
---	--

少し参考になった
29.7%

とても参考になった
67.0%

9割超が
肯定意見

2

第二部：塩見さんと秋元先生のトークセッション
2050年のカーボンニュートラルに向けて
温室効果ガスの排出を減らすにはどうする？

<塩見さん>

Q. “カーボンニュートラル”って、どのような意味なのでしょう？

<秋元先生>

・CO₂をはじめとした温室効果ガスの排出を差し引きゼロにすることです。温室効果ガスをできる限り低減し、排出せざるを得なかった分は、同じ量を「吸収」または「除去」することで、全体として差し引きゼロを目指します。

<塩見さん>

Q.カーボンニュートラルに向けてどんな取り組みが重要ですか？

<秋元先生>

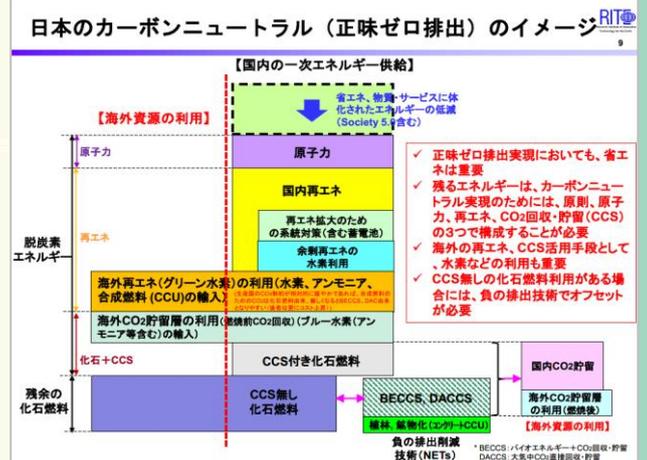
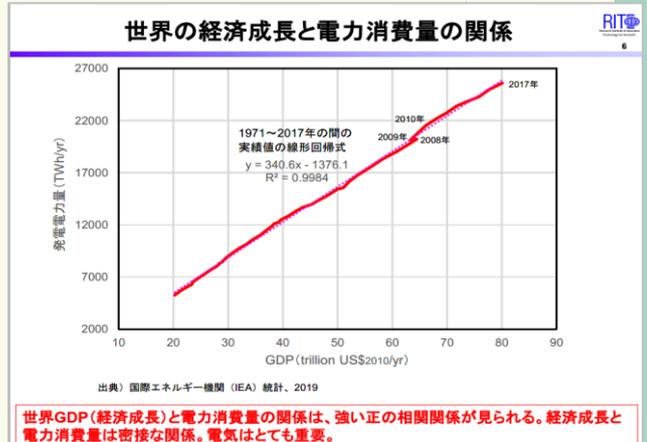
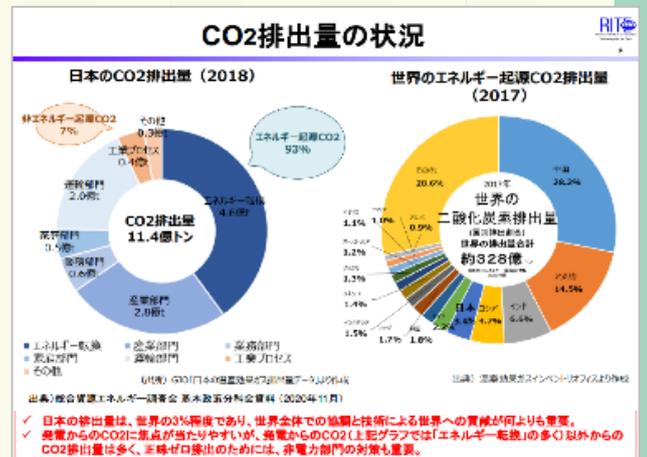
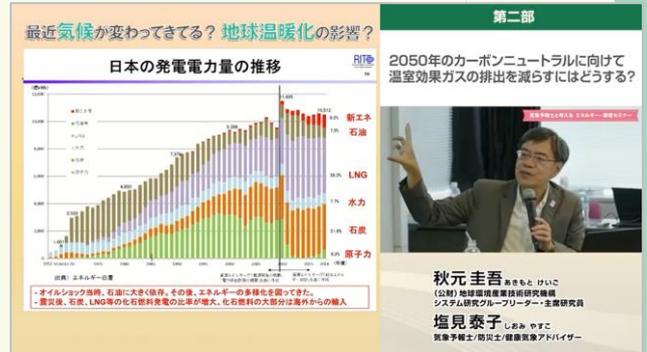
- ・日本だけがカーボンニュートラルを達成しても、世界のカーボンニュートラルには繋がりません。全ての国がカーボンニュートラルに向かうことが必要ですが、非常に難しいことです。
- ・日本の温室効果ガス排出量の内訳を見ると、エネルギー起源のCO₂排出量が93%と非常に割合が高く、その中の約4割に相当するエネルギー転換部門が発電で排出されるCO₂です。
- ・世界の経済成長（GDP）と電力消費量の関係を確認すると経済が発展するときには、必ず電力が消費されています。
- ・今後、経済を発展させながら、カーボンニュートラルを実現するためには発電電力量を伸ばしながら、いかにエネルギー起源のCO₂排出量を削減し、脱炭素の電源を使っていくかということが重要なポイントとなります。

<塩見さん>

Q.カーボンニュートラルはどうしたら達成できるのでしょうか？

<秋元先生>

・現状、2050年カーボンニュートラルの達成は相当難しいですが、実現できないわけではありません。カーボンニュートラルの達成には、省エネに加え、発電時にCO₂を排出しない原子力、再エネ、CO₂回収・貯留（CCS）の3分野が重要です。

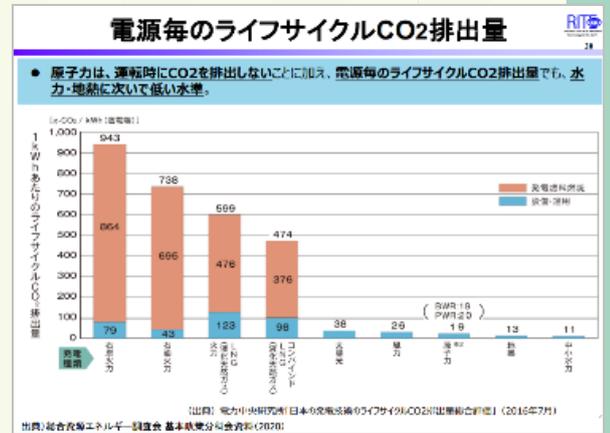


<塩見さん>

Q.2050年カーボンニュートラル達成のためには、太陽光発電、風力発電だけでなく、原子力発電も取り入れることが大事になってきますが、原子力発電は事故があったので不安に感じてしまいます。

<秋元先生>

- ・福島第一原子力発電所での事故の教訓を踏まえ、原子力発電所の安全対策は進んでいます。
- ・原子力発電は放射性物質をしっかりと管理する必要がありますが、安定供給に貢献できる重要な電源です。
- ・各電源の1kWhのCO₂排出量を確認すると、石炭火力が最も多く、次いで石油、LNGとなっています。太陽光、風力、原子力は、発電時にはCO₂を排出しない電源です。
- ・カーボンニュートラルの達成には、再生可能エネルギーと原子力が非常に重要な電源になってきます。しかし、太陽光や風力にも変動する発電量をどうやってバックアップするかという問題があります。
- ・再生可能エネルギー、原子力に限らず、どんな電源にもメリット、デメリットがあります。発電技術の特徴を総合的に把握し、バランスの取れたエネルギー政策をとることが、将来におけるリスク低減のためには、とても重要です。



まとめ



福島第一原子力発電所事故の直後に福井テレビに入社し、原子力関連の取材を通してエネルギーや電気についていろいろと勉強したのですが、今回のセミナーを通して、初めて知ったことがたくさんありました。もっとエネルギーについて自ら学んでいきたいと改めて思いました。

当たり前に使っている電気ですが、実は、電気を作ることは高度な技術が必要なんです。消費者である私たちも、エネルギーについての理解を深めた上で、議論をしていく必要があると思います。また、関西は福井県の原子力発電所で作られた電気も使ってます。生産地への感謝も大切です。



参加者の声



- ・「再生可能エネルギーはすごい」、「原子力発電は悪い」というイメージがあったけれど、それぞれにメリット・デメリットがあるということがわかった。正しい知識が大切だと思いました。
- ・気象もエネルギーも1人1人が正しく理解をして取り組んでいけば、未来は変わってくると思います。
- ・このセミナーに参加して、改めて、原子力なくしては我々の将来がないという考えが強くなりました。

アンケート結果

Q.セミナーへ参加し、次のことをどのように思われましたか。

原子力発電は発電時にCO₂を排出しない「脱炭素電源」であること
太陽光発電や風力発電は、発電時にCO₂を排出しないが、天候による発電量の変動を火力発電でバックアップする必要があること

